

【リカバリー王Z】Windowsに関する注意事項 / 制限事項

Windowsに関する注意事項

Windows特有の注意事項がございます。

1. User Account Control(UAC)の対応

本製品プログラムの動作には管理者権限が必要です。実行時には「管理者権限に昇格」する確認画面が表示されます。また、いくつかのツール系のコマンドは「管理者権限に昇格」したDOSプロンプトで実行する必要があります。

2. Volume Activation 2.0 (VA 2.0)について

Windows Vistaから「マルチアクティベーションキー(MAK)」と「キーマネージメントサービス(KMS)」という2種類のボリュームライセンスキーが採用されています。それぞれアクティベーションが発生するタイミングが異なりますが、瞬間復元が有効な状態ではアクティベーション情報も修復されます。お客様の利用状態によっては、運用中にアクティベーションが発生する可能性があります。その為、それぞれのアクティベーションのタイミングを意識した運用を行って頂けるよう、充分ご注意ください。以下に方式毎に発生するタイミングについて記載します。

[アクティベーション発生タイミング]

MAK方式

- ・アクティベーション前の30日間
- ・ハードウェア構成変更時
- ・クローニングを行った場合
- ・Sysprep実行後に認証が必要

KMS方式

- ・アクティベーション前の30日間に認証が必要
- ・クローニングを行った場合に、認証が必要
- ・アクティベーション後、180日間に1度の認証が必要

※KMS方式をご利用の場合は、180日に一度、保護解除モードに変更してからアクティベーションを行う等の考慮が必要になります。

また、KMSホスト(KMSのサーバ機能)が構築されているPCに、リカバリー王Zクライアントをインストールしないでください。瞬間復元によりアクティベート情報が全て削除されます。

3. ツール

本モジュールに同梱されているツール(各種コマンド)は、管理者権限に昇格させたDOSプロンプトで動作させる必要があります。

4. Windows Update

リカバリー王Zのインストール後、Windows Updateを実行する場合は、必ず保護解除してください。保護モードのままWindows Updateを実行すると、OS環境に不整合が出るなど不具合が発生します。この場合、OS環境のリカバリ(クリーンインストール)が必要となる可能性がございますのでご注意ください。

Windowsに関する制限事項

Windows OSの以下の機能(動作)について、現在のリカバリー王Zでは未対応のため、本ソフトをインストールした時に動作しないような制限を行っている機能があります。

1. 動作権限

本モジュール(プログラムおよび各種コマンド)は、管理者権限に昇格させた状態あるいはローカルシステム権限を有するプロセスで実行する必要があります。

2. 修復保留モード時のアップデート

修復保留モードでは、リカバリー王Zクライアントのアップデートはできません。リカバリー王Zクライアントのアップデートモジュールの適用は保護解除モードにて行ってください。

3. ログオンパネルの変更機能

ログオンパネル変更機能の「ユーザー名およびログオン先を自動入力する」「前回ログオンしたユーザー名は表示せず、ログオン先のみ自動入力する」は利用できません。これは、Windows Vista以降のWindowsがサポートしていないためです。

4. Volume Shadow Copyサービス、システムの保護に関する制限

瞬間復元機能を正常に動作させるために、リカバリー王Zクライアントをインストールすると、以下の機能を無効にする設定が自動的に行われます。

- ・「Volume Shadow Copyサービス」を停止に設定
- ・「システムの保護」を無効に設定

このため、これらに依存する機能は動作せずエラーとなります(例:「システムの保護」の画面を開く、「バックアップと復元」の画面からの各種操作を行うなど)。なお、Volume Shadow Copyサービスは、本ソフトをインストール後に利用者が“有効”に再設定することが可能ですが、有効状態での動作は保証できません。また、本ソフトをアンインストールした時には、インストール時点の設定に戻ります。

5. 更新保存(復元ポイントの設定)に要する時間

リカバリー王Zの「更新保存」には時間がかかります。OSの設定変更やソフトウェアのインストールなどを行っていない場合でも数分を要します。状況によっては数時間にわたる場合があります。なお、「更新保存」途中はキャンセルができません。

6. デフラグタスクの停止

Windowsでは、デフラグがタスクとして登録されています。リカバリー王Zではインストールすることで「デフラグの定期タスク」を無効に設定し、実行されないようにします。これは瞬間復元機能にて、デフラグをサポートできないためです。

7. スタートアップ修復機能

Windowsのスタートアップ修復機能はリカバリー王Zクライアントをインストールすると、スタートアップ修復の自動起動が無効になります。リカバリー王Zクライアントをアンインストールすると、自動起動は有効になります。

8. VHDドライブへのインストール

VHD(Virtual Hard Disk)を利用した仮想ドライブ/ブート環境へリカバリー王Zクライアントをインストールするとシステムが正常に起動しなくなります。リカバリー王Zクライアントをインストールしないようにしてください。

9. ファイル履歴機能

Windowsのファイル履歴機能では、ファイル・フォルダ単位の管理方法(保護タイプ)にて修復対象領域のファイルの履歴を残すことはできません。ファイル履歴機能を利用する場合は、履歴を残したいファイルを修復対象外領域へ置か、管理方法(保護タイプ)をパーティション単位にしてください。

10. 高速スタートアップ

Windowsの高速スタートアップの機能はリカバリー王Zクライアントをインストールすると無効になります。リカバリー王Zクライアントをインストール後に、Windowsの設定を変更することで高速スタートアップを有効にできますが、機能を有効に設定した場合の瞬間復元機能としての動作は保証できません。

11. リフレッシュ、初期状態に戻す

Windowsのリフレッシュ機能や初期状態に戻す機能は、「修復モード」や「修復保留モード」の状態では正常に動作しません。リカバリー王Zクライアントをアンインストールしてから実行してください。

12. Windows To Go

WindowsのWindows To Goの環境にて、瞬間復元機能は正常に動作しません。リカバリー王Zクライアントをインストールしないようにしてください。